

「いのちと心を育む」 標語コンクール 最優秀作品など8点を紹介

山田町いのちと心を育む運動月間として「いのちと心を育む」標語コンクールが行われ、8月6日に開かれた審査会で応募作品の中から最優秀作品賞6点と審査員特別賞2点が選ばれました。同コンクールは、町内の児童・生徒に自分の生活を振り返り、明るく楽しい日々を過ごしてもらおうと毎年開催されているもので本年度は「ネット利用」「いじめ防止」「明るい生活」の3部門に町内小・中学校、高校の児童・生徒から121点が寄せられました。入賞した作品は次のとおりです。
※入賞した作品8点は各学校や町中央公民館など町内各所に掲示されます。



◎最優秀作品賞

小学4年生 ネット利用部門
ネットでも 悪口言ったら ますますくよ
船越小 川村 京楓

小学5年生 いじめ防止部門
「大丈夫？」 その一言で すくわれる
山田小 北田 結衣

小学6年生 いじめ防止部門
あなたにも 分かると思う この痛み
山田小 館本 莉乃

中学1年生 明るい生活部門
あいさつが たえない故郷 山田町
山田中 佐々木 乙葉

中学2年生 明るい生活部門
あいさつは 先手必勝 心がけ
山田中 木村 旺輔

中学3年生 ネット利用部門
スマートフォン みんなで守ろう 十時半
山田中 小原 望鈴

◎審査員特別賞

明るい生活部門
あいさつで みんなに広げられ 絆の輪
豊間根小5年 阿部 太智

いじめ防止部門
見ないふり そんなあなたも 共犯者
山田高2年 中屋 絢介

鯨峰爽やかに

コロナ禍において人前であいさつをするときにもマスクをして臨んでいます。マスクを着けて話すと、着けていない時に比べて言葉に力が入らないような気がします▼話し手から聞き手に伝わる情報は、話している言葉そのものの言語情報は7%、声のトーンや話す速さなどの聴覚情報は38%、顔の表情や身振り手振りなどの視覚情報は55%の割合で伝わるというメラビアンの法則というのがあります▼例えば「いいよ」という文字だけだと要るのか要らないのか、どちらにも受け取ることができません。人はこのような際に表情や声のトーンなどの情報を判断材料としているのです▼よく関西の方が言う「アホ」は好意的に使われているようですが、言い方や表情によつては受け止め方に相違があることは否めません▼顔の表情がわかるように、一日も早くマスクが取れる日を願うばかりです。

教育長 佐々木 茂人